

3. きょう土を開いた人々

(1) 西根堰

西根堰はどこにあるのだろうか
いつ、だれが中心となって、どのようにつくられたのだろうか

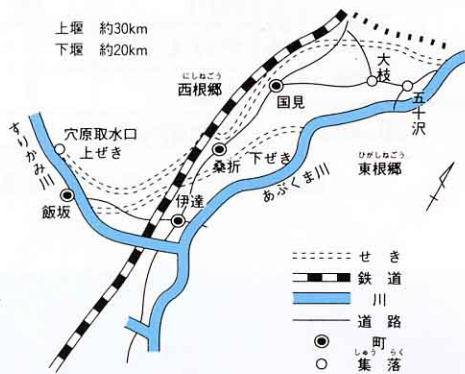
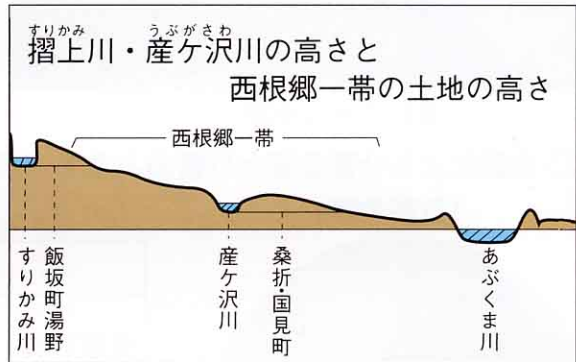
① 用水をつかって水をひく

むかし、伊達郡は、いくつもの村々に分れていました。そして、あぶくま川を境にして、東の方（伊達の一部、保原、梁川）を「東根郷」といい西の方（飯坂、桑折、国見、五十沢、大枝）を「西根郷」とよんでいました。

西根郷は、土地そのものはこえていましたが、あぶくま川より土地が高く、水をひくことができませんでした。そのため、水の便が悪く、水不足のため、たえず農民はひでりの害に苦しみ、水田の開発もおくられていました。

そのころ西根郷は、上杉氏の領地になっていましたが、1600年関が原の戦いが

あり、上杉氏が豊臣側についたために勝者である徳川方からにらまれ、領地は120万石から30万石にへらされてしまいました。しかし上杉氏は家臣をへらさなかったため、藩は大変苦しくなり、いっそう開こんにはげまなければならなくなりま



現在の下堰の取入口（飯坂町）



かんがいされた広々とした水田（伊達崎地区）